

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げているが、理念の共有をしきれていない。	事業所設立時には、既にあった法人の理念「信頼と和(なごみ)」を掲げ、玄関入口に掲示している。職員入社時の新任研修や、利用者入所時には家族への説明を行なっている。管理者自身、この理念はこの事業所に相応しいと感じているが、職員との理念に関する話し合いが出来ていない現状や共有化の為に、事業所内・外へ理念発信の必要性を感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れを検討しているも、活動はできていない。	町内会費は法人の方で支払われており、事業所へ訪問する中学生や地域の慰問の受け入れは行なっているが、訪問・面会は、御家族が中心であり、併設の地域密着型特別養護老人ホームとの交流が主な現状であり、「地域とのつきあい」については難しい部分を感じている。地域の中で、その人らしい生活ができるだけ途切れないような継続できる支援をしたいという思いはある。今年、併設特養と合同で行ない、利用者も参加し、家族に好評だった「夏祭り」を、来年はボランティアや地域の人達の参加を得て、一層の交流を図れるよう働きかけをしていきたいと思っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けての活動はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設特養が行っている運営推進会議と合同開催を考えているが、実現できていない。	設立1年5カ月の経過があり、併設する地域密着型特別養護老人ホームと合同の運営推進会議が開催されている記録はあるが、事業所であるグループホームの特性を参加者に伝えたりすること、さらには利用者・家族の参加が全くなく、グループホームとしての積極的な運営推進会議が行われていない現状がある。	今後はグループホームの利用者、利用者家族、職員、地域代表、市町村又は地域包括支援センター、地域の他地域密着事業所等々が参加した運営推進会議で、事業所活動の明示や利用者の状況を説明し、参加メンバーから質問や意見・要望を伺いながら、明らかになった事業所の課題への取り組みや意見交流を行い、サービス向上や地域と共に歩む為の取り組みに繋がるような運営推進会議が、定期的に行なわれることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	併設特養が行っている運営推進会議にて、グループホームについても地域包括支援センター職員と報告・相談を行ってはいる。	市町村との連携の大切さは把握しているが、特別の連携事項はない現状がある。相談の必要性を感じた時は、地域包括支援センターへ相談している。これからは、市町村担当者へ運営推進会議を始め、参加案内・会議記録を届けたり、事業所の取り組みと実情を伝える事で協力関係を考えてみたいと思っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解の下に、取り組みをすすめている。	「身体拘束しないケア」への研修会・委員会設置・マニュアル等は今のところない現状がある。管理者、職員も身体拘束は行なわれていないと感じている。	眠れない方へのセンサーマット使用等々、予想されるリスクについて、職員間の検討事項や家族への説明記録、ケアの内容等を適正に継続的に検討し記録する必要がある。今後は、「身体拘束しないケア」をパート職員を含めた職員全体が理解するシステムを整備し、事業所全体で取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	5-2	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的な取り組みがなされていない。	「高齢者虐待防止」の為の研修会・委員会設置・マニュアルは今のところない現状がある。「ひやりハット」等記録の共有や確認の仕方などには、工夫の様子がみられた。	今後はマニュアルの整備や見過ごされる事が多い不適切なケアや虐待発見時のフローチャート作成、人権や尊厳を守る介護についての研修が行なわれることを期待したい。また同時に、職員のストレスがケアに影響していないかについての把握や対応を具体的に整備されることを期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行えていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、電話連絡や来所された際の接点を密にするよう取り組んでいる。	意見箱はあるが余り利用はされていない。職員は家族の面会時や電話での連絡の折、意見や要望を窺うことに努めている。今回、受診についての家族からの相談を、地域包括支援センターに相談し、支援団体との連携に繋がり、利用者と家族の安心へ繋がった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートを行ったり、個人面談も始めている。	職員アンケートには文面での返答を心がけ、個人面談の開始やユニット会議での聴き取り状況を職員会議へのフィードバックに努めている。現在、人員補充についての意見要望が強く上がっている。また、グループホームの独自性や役割・働き方等についての意識作りは、経験豊富なリーダーが会議ばかりでなく、日常の中で職員との会話がなされていると管理者は信頼を寄せている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	具体的な取り組みができていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修会の実践及び外部研修会へも参加している。又、復命(伝達)研修会行っているが、より積極的な取り組みをしてゆきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内で会があり、お誘いもあるが参加できていない。参加するようにしてゆく。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添うケアを心掛け、不安や問題解決できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に明確な話し合いの機会を持ち、その後も話し合い等、積極的継続できるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階は情報交換を密に行い、その後も報告・相談を継続している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	軽作業や調理準備・片付け等、できることは一緒に行っている。入居者の意見を尊重した環境づくりを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	7-2	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に無理のない形での協力を求めている。信頼関係の継続に努めている。	週末に家族が迎えに来られ、日帰りで利用者の自宅へ外出し、草取り等を家族と行ないながら、今までの生活の継続とホームでの生活が無理なく出来るよう家族と共に支援している。亡くなられた昔馴染みの方へ、利用者と家族と一緒にお参りに出かける等の支援も行われ、共に支え合う関係継続がある。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援や面会対応も積極的に行っている。	馴染みの地元のパーマ屋さんに出かけたり、近くのスーパーに買い物に職員と出かけることは行なわれているが、地域の方のさりげない日常的な訪問などは、まだ、行なわれていないので、今後の課題としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	情報収集に努め、入居者同士の関係づくりや皆が参加できるように意識的に取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	随時連絡をとるような体制づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心に、ユニット会議でも意向の確認や検討を行っている。	入所時には利用者、家族への聴き取りを行い、状況の把握から希望、意向の理解に努めている。入所後は、生活場面ごとに利用者の意思確認を行い、それが困難な場合でも、日常の会話や関わりの中から、それぞれの希望や意向を汲み取りながら支援している。	本人や家族がプラン検討に向けて参加することの出来る機会や場を増やし、利用者にとって馴染みの地域での暮らしであることへの理解を深め、今後、更に思いや暮らし方についての希望、意向が汲み上げられていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	9-2	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当職員を中心に、ユニット会議でも意向の確認や検討を行っている。	入所時には「訪問時間き取り必要用紙」に基づいて、本人や家族への聴き取りを行うと共に、これまでのサービスの利用状況等をケアマネージャーからの情報にて得ることにより、経過の把握に努めている。これまでの生活歴から本人の習慣を継続していけるような支援を心掛け、ユニット会議や日々の記録をもとに担当職員を中心に発信し、職員間にて共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員を中心に、ユニット会議でも意向の確認や検討を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ・担当職員を中心に、現状に即した計画書作りに取り組んでいる。	ケアマネージャーが本人の話や生活の様子を把握し、職員からの情報を収集の上、介護計画を作成している。モニタリングはユニット会議で職員間での情報交換の上、担当職員が中心となって行っている。今後、より本人の意向や家族の気づきなどの意見・要望が反映された介護計画となるよう本人、家族が参加した話し合いの機会を増やしていくことの必要性を感じている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアマネ・担当職員を中心に、現状に即した計画書作りに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化は取り組み・実現がなされていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	課題であり、地域資源の把握に努め、ボランティアの依頼や交流活動を行ってゆきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を大切にしている。必要に応じて受診時の送迎も行っている。	本人・家族の意向を大切にしよう努めている。受診時には、日頃の様子や受診に必要な情報を書面にしたものや体温表にて状態の情報提供が出来るようにしている。受診後には医師からの指示を受診表として記録し、職員間で引継ぎを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設特養との連携が図れるように、課題として検討を重ねている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	初期の段階から情報提供と状態確認を行っている。より関係者との関係を深めてゆきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設特養との連携が図れるよう、課題として検討を重ねている。	終末期の対応等について、併設の地域密着型特別養護老人ホームと共同の研修や委員会に参加し、入所から終末期までを含めたグループホームでの生活が継続出来る体制作りを視野に入れて検討している。現状では、状態の変化に応じて本人・家族との話し合いを行い、意向を確認し、併設の地域密着型特別養護老人ホームとの連携を取りながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設特養と共同で、消防による心肺蘇生法・AED操作研修を実施。看護師による急変時の対応・応急処置等の研修を積極的に継続してゆく。	併設の地域密着型特別養護老人ホームと共同で急変時等の研修を実施し、緊急時の対応マニュアルや夜間の緊急対応のフローチャート等が作成されている。今後も定期的な研修の実施を計画している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施。近隣との協力体制等は今後の課題である。	年に2回の火災対策訓練を計画しており、消防署の立ち会いのもとに1回目の訓練を実施した。防火マニュアルや緊急連絡網が作成されている。今後は、近隣との協力体制を築いていくことを課題として考えている。災害時の備品、備蓄については、併設の特別養護老人ホームと共同で準備されている。	昼だけではなく、夜間を想定した訓練や様々な災害を想定した具体的な避難、誘導対策に向けての取り組みの必要性を感じている。職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域の人々や他の事業所との連携を築き、日頃からの話し合いを行い、一緒に訓練を行うなどの実践的な取り組みを整備し、年間を通じて繰り返し訓練されていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念である「信頼と和み」を念頭に、一人ひとりの思いを大切にケアを行っている。	職員は日頃から誇りやプライバシーに配慮した声かけを心掛けている。また、一人の時間の確保など、利用者一人ひとりの過ごし方についても本人の意向を大切に、プライバシーに配慮しながら対応している。プライバシーについてのマニュアルは作成されているが、今後は更に職員間での具体的な意識共有に向けた研修の実施について考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や意見を自由に言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人・家族の意向を考え、個々の思いに添ったケアを行えるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族へ意向の確認を行った上で、支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	宅配サービスを活用し、美味しく食べて頂けるように心がけて調理の下準備や片付けも一緒に行っている。	日々の献立は食材の宅配サービスを利用し、利用者と共に料理している。また、時には利用者と話しあい、一緒に献立を考えたり、買い物に出掛けたりして材料を揃えて作ることもある。季節感を感じてもらえるよう流しそうめんやおはぎ作りの実施もある。また、外出の計画があるときのお弁当作りや希望により出前をとることもあり、食事が「楽しみ」なものとなるような工夫がされている。食事の準備や片づけ、包丁研ぎなど、利用者の出来ることや得意なことなどを活かし、和気あいあいとした食事の時間を過ごせる支援をしている。食材の担当者は、併設の地域密着型特別養護老人ホームの栄養士にカロリーや塩分制限への対応等の相談をしながら献立についての検討を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	細かい食事制限には対応できていないが、了解を得た上で利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の支援を行っている。	一人ひとりの排泄リズムを把握するための表が用意され、支援の様子と共に記録している。自分自身で把握したい思いがあるが、忘れてしまいがちな方に対しては利用者本人が記載し、確認出来るような個人表にて対応するなどの工夫がされている。今現在排泄支援においては、ほとんどの方が自立しているが、記録をもとに本人のペースや習慣に合わせた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中で、体操や散歩をしたりと活動を確保している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人、家族と相談の上で目安となる入浴時は設定しているが、本人の意向や状況に応じてできる限り対応している。	本人の希望やタイミングに合わせた支援を心掛けている。入浴の拒否がある方については時間を変えたり、対応する職員を変えたりしながら気持ちよく入浴していただけるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペース、リズムに合わせて提供できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	併設特養との連携が図れるよう、課題として検討を重ねている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人にとっての役割・楽しみごとについて、ユニット会議等で確認しながら常に追求している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画に加えて、できるだけ多くの外出の機会を持てるように努力している。	外出レクリエーションとして計画を立てて出掛け、楽しんでいただいている。家族と共に週末を自宅に帰って過ごされる利用者がある他、日常的には、食事の買い物と一緒に出掛けたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として管理、外出時等では可能な方はご自分で現金管理、職員見守りでの支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	これからの状況に柔軟に対応してゆくつもりである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂き、安心できる空間づくりを行っている。アットホームな雰囲気を目指し、適度に入居者と飾り付けや展示も行っている。	共用スペースには中庭から明るく光が差し込んでくる。また中庭には季節の花が育てられており、テーブルには生花が飾られ、季節感に配慮した空間作りがなされている。利用者が外出された際の写真が飾っていたり、明るい雰囲気を醸し出している。中庭を挟んで反対側には併設の地域密着型特別養護老人ホームの様子が見えるような造りになっており、利用者は近所に住む方の気配を感じるような感覚を持たれている様子で、これまでご近所だった方と交流のきっかけとなったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的にもみんなで楽しく、リラックスして過ごしていただいております。随時個別対応を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に個別に必要な物は持ち込んで頂き(火気以外)、安心・安全な空間づくりを行っている。	入所時には、家庭で使用していた家具や仏壇、身の回りのものを自由に持ちこむことが可能である。畳の部屋とフローリングの部屋があり、希望や状態に応じて選択出来るようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		